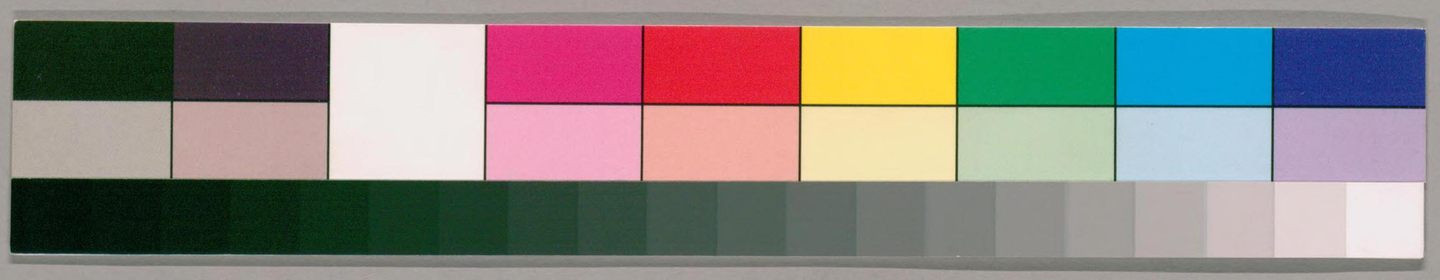
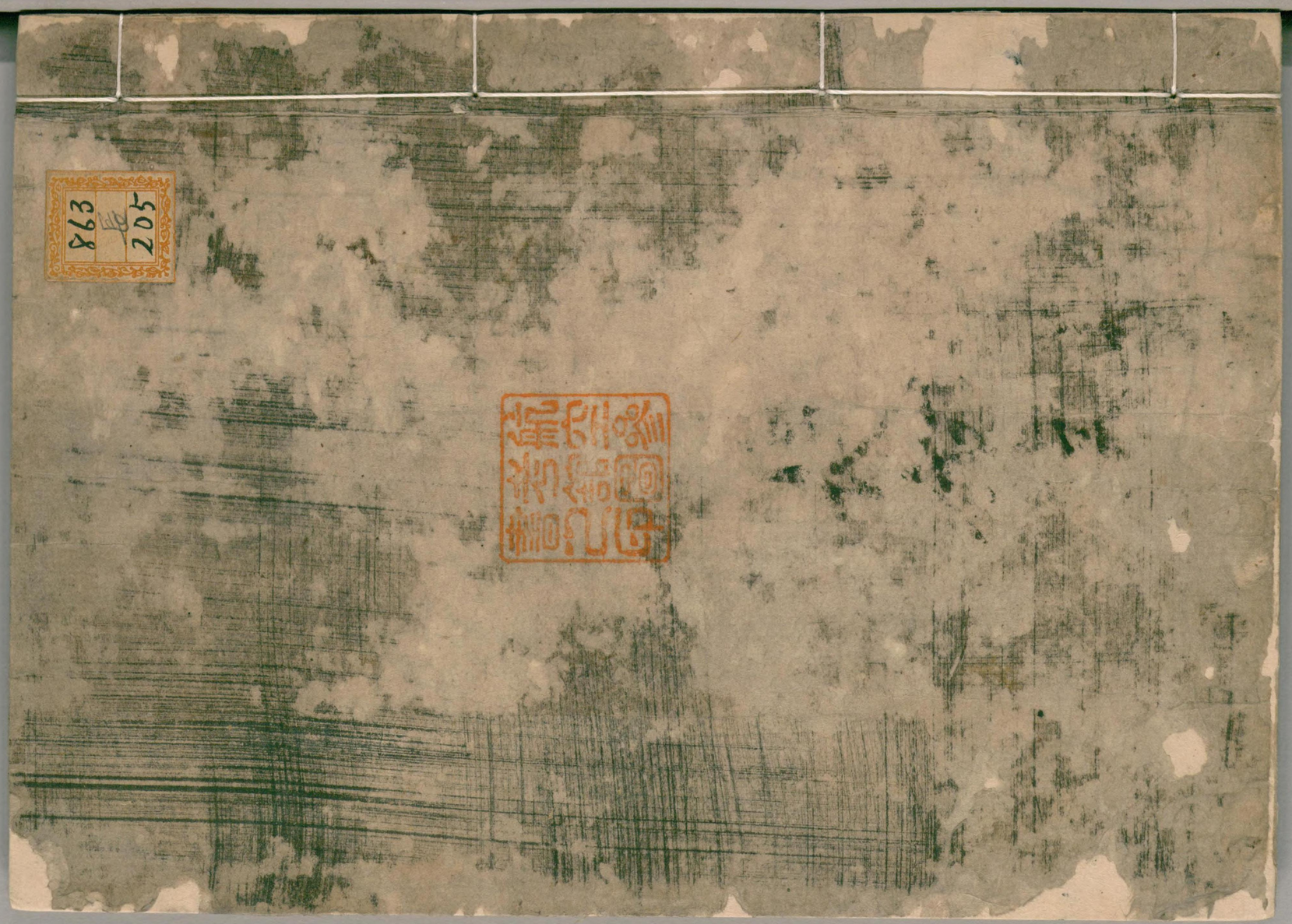



863
205

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『長崎聞見録』　請求記号 863-205

長崎聞見録

八幡山主

治奥寺

用

航空参考館図書之印

国立国会図書館　タイトル『長崎聞見録』　請求記号 863-205

ガラス使用

863
205

長崎聞見録 全

平安廣川 撰

長崎風俗男女不同

寛政丁巳初春

国立国会図書館　タイトル『長崎聞見録』　請求記号 863-205

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『長崎聞見録』 請求記号 863-205

ガラス使用

嶋陽風俗有五百六石初發艘の艫に舟龍の頭のごとく作りつくるを云舟
筋をかけ舟ハ藻のごとく掛(カケ)れて走る舟を云風雨を学び五日海上あるきを云
波うつをを又崎陽の人是多くあるゆへ一艘の舟
に五日程人〳〵と称り町〳〵の勤方下ニ階ニ居る詰をつとし掛(カケ)たる舟
ニ乗ニ打挽(カケ)たれ共走ること飛石ニ似て甚行ことの
かぬ疾し一ツ艘ニ数艘一艘ニ庖厨(ハウチウ)舟一艘ニ而ハ宿の如し一ツ艘ニ

七海寺参る

七月十三日を送り火とて三界万霊（さんがいばんれい）
御迎祢（おむかえ）勤営（いとなみ）見廻（みまわ）るの山ごとに一本ずつ
親ごとに人の墓ごとに朱と赤と黄色の
毛氈を敷き経（きょう）提重（さげじゅう）重箱等（など）取行（とりおこな）て参詣（さんけい）する人の賑（にぎ）
〳〵礼を云（いう）墓を飾（かざ）り終（おわ）れば
けふこしかんぼう御つ祢（ね）
人数（にんず）もたくさん揃（そろ）
云（いう）海原（うなばら）おもてにかゝりて

けふ終（おわ）いまだ人を多く（おお）

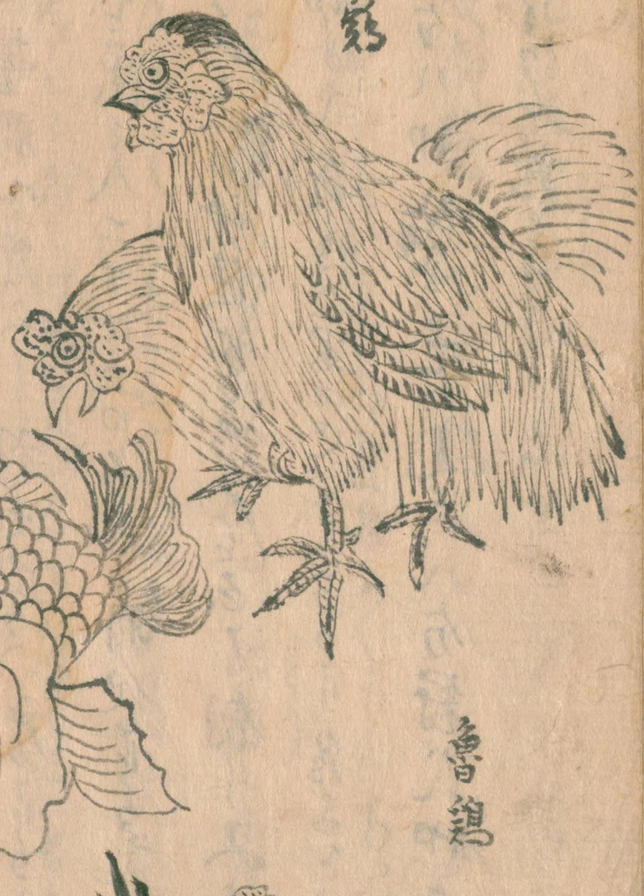
麝香鼠

野牛

国立国会図書館　タイトル『長崎聞見録』　請求記号 863-205

ガラス使用

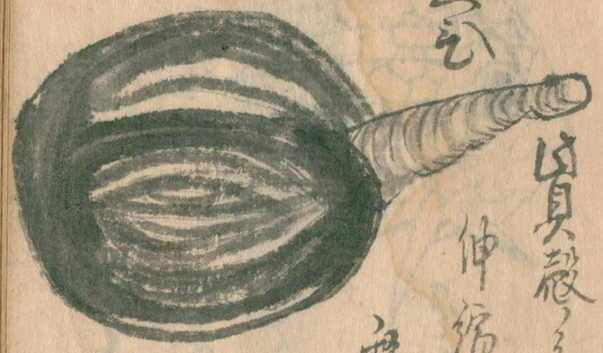
和蘭作り紙筒を煙草の口を和
らの表或蕃気を袋鶏のを入
打て粉田し湿むあて上を袋ありう
空うの是煙草の口ありの
絶令唐鶏うてとまる空
渡て死んと初て叶ものを洗ん中煙
うあも是和蘭船を場
我別の和名を換てりを作
雪面を陽これを飯所悼



石龍子

獅子頭魚

魚白鷄



貝殻を色法器にして稿のうたに先きを関ね伸縮をうまく口ずさみ両方へ引き合ふ所変るのとに面白きものなり

此魚甚だ乾柳子に似多くして各く名魚にて値ひ他魚に百倍せり老漁人曽おそり而白きものなり

国立国会図書館　タイトル『長崎聞見録』　請求記号 863-205

ガラス使用

松子魚ハ老海にあり丸きれいさう
六角のもろかしら皮をも包あり
ときどきあり大きさ四寸ばかり
是を煮て食ふに鯛にこの味ハとか
なきよし味噌漬ものを

おとも魚

老海にあり形ハ鯛に似て尾に
突物ごとき角あり骨柔なり
長さ一尺六寸より二尺
位迄也

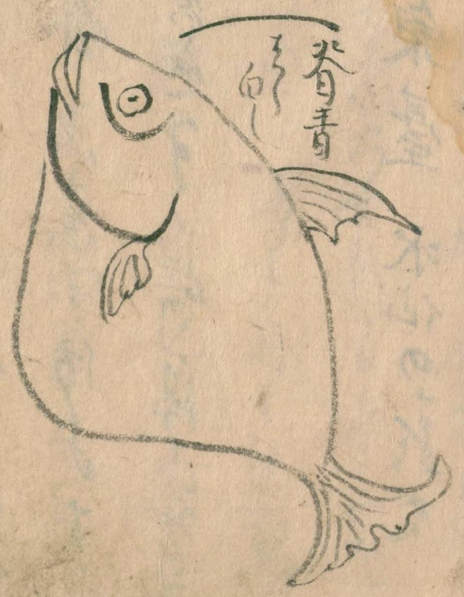
かもめ

老海にあり形ハかもめのごとし
腹白きもの也

檀木鯨

堪ゆ肉

老海のごとく形ハ鯨に似たり
と云



煙草切庖丁

脊青き色

国立国会図書館　タイトル『長崎聞見録』　請求記号 863-205

ガラス使用

銀臺　氷仙の葉也

婦人乳腫ら研そて物効あり

別州風蘭

うん重ね大葉花房ら白色にして
ものこと香氣をうり夢はへし
葉長ら風蘭ら三ら花葉ら
齒樹ら校樹の葉ら
落花後ら

国立国会図書館　タイトル『長崎聞見録』　請求記号 863-205

ガラス使用

尾高貝

大蓋の如し

釜貝

天草島ゝまれなり

蓋のごとし一味至

美うまし形文の如

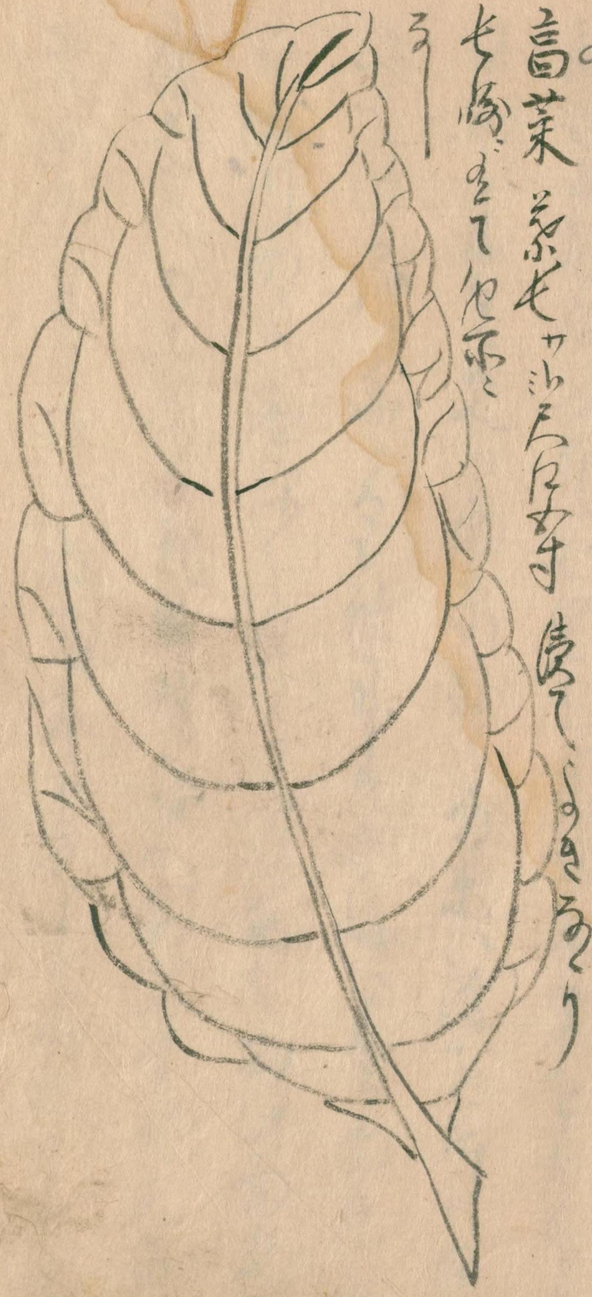
色こまやかなり

○櫛櫛(くしげ)本ハ七島産ニ多し

形色共に如左

唐菜(とうな)と云ふ葉二尺ばかり

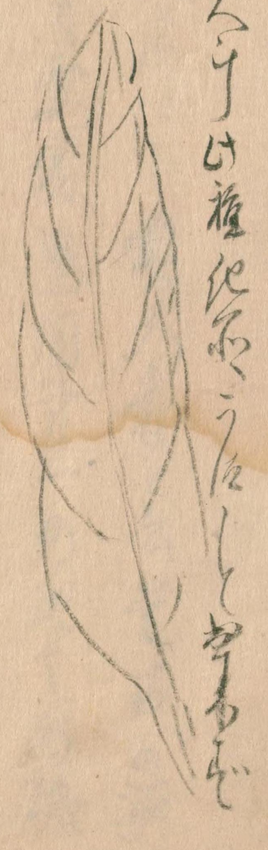
味ふかし生にて



又

高菜 葉七八寸ばかり

七月ごろ花咲



国立国会図書館　タイトル『長崎聞見録』　請求記号 863-205

ガラス使用

唐の帝都の
乾隆帝の都ハ北京にて順天府と云古への燕
の地にて四方の要害堅固甲一の地にて城
周廻四拾九里七里を廓とし
四方に門あり之を南京と注す
訛て川京と唱ふ南京ハ
昔し明の帝都にて
今ハ川京ハ
唐土甲一の土風にて気候暖
三代南京のさかりし頃迄ハ

凡一百九十七万人程なり其余豊後
寧波八日本への海口唐の代官
長崎日本より阿蘭陀の船も来る
抔き唐人凡六万斗豊後
七海へ来る唐船多くは
此の船にて琉球を経て
唐船

唐船を三階と上の階は格子窓
海へ入抔と格子のごとけ
帆の掲げし儘

陽帆にて来候八唐人の船やくと
外方見え候等聞えれ跡より追々
見届のため船の高中と思ふ
海まで飲水を焼のため
格子窓抔は不用
川口警固船
日和船并荷船
船を連て行を甲乙を定め
又大鳥を画きたり

国立国会図書館　タイトル『長崎聞見録』　請求記号 863-205
ガラス使用

唐舩畧圖

船菩薩之事

菩薩と云舩神を媽祖と云信仰し
娘大海に没して神となる故神号
を天妃と改め世毎の化身なりと
野乃稚児即媽祖の和言なり唐舩
海あれば此舩神を唐寺に祈るそ
ものを辻こゝに移して椿を植
甲乗舩を拝よりの名ありと

唐人風俗

唐人風俗實ものゝれ
大勢集り春ともろともさそ
云方実ものゝ多く於そのと
日本の石火一面りまかり上、
劇夜一とう日なの所〳〵於て
於よ又碁盤を見ゝ盤
劇多り実ハ盤程は
重ゝ〳〵彼地の人除て

唐人生産のお信子をもと
もと寄らに或を一口或ハ一壺
新の燥(カハキ)ものをなし唐人共
き賞て喜ら燥さるゆる片角
ら新しく生〳〵燥さ
そくさ脇も寄らに波紀いる
け把の風俗ら片役のもの
なりとも毎々役人て御和

四年の例をもて詰問をなしし唐人
言をもて是を欺かんとす因て重ねて唐人
を糺問するに仍て仕形を白状す通事
多くは唐人と通じ種々の欺かりごと
また門等の事は唐人を頼みて是を行ふ
異地異類にて互に其事詳ならざるの
人学ぶ所なり其人老病衰弱にて速に
帰ると見て大概を唐人に伝へ給仲取次等を命令

[illegal]
[illegal]
[illegal]

唐人服薬

唐人病みて彼醫所の調劑するを見て
大概を知れども其方量を領悟する事
一通りに非ず薬の剤和高下の
ごとき薬方相生相殺の
理を知らざれば別に彼地
の唐人醫師を聘して
診察をなさしめ
方を立て唐人薬局の
ごとく調劑
するごとき
ものなり
又彼地
にて病
人に薬
を與ふ
るに何
方三度
に用ふ
るとき
へども
其唐人
見て其
病に應
ずる薬
方を與
ふるに
あらず
其病の
ごとき
は何地
産麻黄
何方三
度用ふ
るとき
へども
其唐人
見て其
病に應
ずる薬
方を與
ふるに
あらず
彼地に
て病人
に薬を
與ふる
に何方
三度用
ふるご
とき

陸伯之門陰陽

陸伯之門と云唐人ハ老病ニ付
勤ハ不仕ニ而ハ有之候へ共
其所ニ住居仕候ニ付
其門ニ陰陽
師之札を
出し置候ニ付
陸伯之門
と申候
唐人の
法を不
用ニ而
日本
流ニ
致候
ニ付
陰陽
師と
申候
哉
何
之
為
ニ
候
哉
と
尋
候
へ
ハ

唐の四人

四人ハ見せ物ニ而陸伯之門ニ
おゐて芸をいたし候ニ付
其所ニ
而
見
物
仕
候
ニ
付
其
芸
を
細
ニ
記
ス

四人ハ何も唐ニ而ハ名ある者ニ
而候へ共
日本
ニ而
ハ
銀
ニ
目
ニ
替
候
ニ
付
渡
海
仕
候
哉
と
尋
候
へ
ハ
銀
ニ
目
ニ
替
候
ニ
付
渡
海
仕
候
ニ
而
ハ
無
之
候
へ
共
唐
ニ
而
ハ
名
ある
者
ニ
而
候
へ
共
日
本
ニ
而

時ハ日本人ハ仕事ヲ習ヒ
ハシマリ唐人ハ勤メヲ
自慢ニ業ノ私ノ和ヲ組ヲ
又ニ右ノ唐人ハ仕事ヲ
夜ノ内ニスルヿヲ
ヲ付別ヲ下宿ニ
唐人踊ル

唐人力量ヲ日本人ニ
ヲ為ルヿヲ云ヲ

日本人ハ仕事ヲ
仕事ヲ気ヲ一業ニ唐人
舞人ハ踊ルヿ
人ハ踊ヲ一所
許ヲ込テ踊
為ニ唐人ハ
唐人ハ無力

唐人ハ弱ヲ

唐土の事を言ふに先づ南京蘇杭抔と云ふ者故
唐人共に皆ぜんさい顔或は
ぜんさい顔
唐人顔の内にぜんさい顔
をする者多き所を顔の内の
国ぶりの所にて
て言ふ時は
て学文
別て言ふ

唐国より来る船一隻毎年の如く
来るものとす

唐人遊宴

唐人を遊宴の場所を統括する
奉行を彼地より派遣し遊宴に
遊宴と唱え一年今度しくろ
み白糸ととも其他種々の
従のごとく勿論雇役
又右船の万事を統
七年度遊宴に昔財唐人と相識る間の学
者数名両湯の人に唐人と学問
就て通詞高宅へ寄宿せんことを
の願書を差出すに彼之生
を窺うに唐人性と易を見んと欲
とて唐人日本の中と遊宴
しと欲す彼之生寄宿
彼地へ遊宴等のこと
唐人屋敷へ

唐人けり出すまり死ろ待てくみるとに舷側内劇とはれた
舷面まるに時く仏支倩唐人一面ろの濱頂に一万
行ろるみを作り祈石和祈黒和事く神のとろ作
舷内く唐人寺の後を待てて後祭内
をか一海中へ投り焼捨てるまるこ多み丁寧にまる時
とは七ろまを唐人毎と二艘作り一八和船一八人取ろり
お船ろ死ろるまるをかみ多れ事ら丁船ろ死ろるまい大船を
号一の為こけ船を祈石和祈唐人員数寡ろ如迷ふの船を
祈如く一とて関ろまろ表祈ろ作ろ為れて費かろ
二三花堂周為ろ日とろまるこけ財を破ろ船を出ろ海を
祈へ出堂程七漕き打けお出ろ合戦を仕ろふし刷(すり)を吹
見為ろ船ろまろのくまろ和(かず)為場とろ唐人ろの揚りろの
乗船も岸ろ引ろ少ろと放て家く焼捨ろこけ財唐人
乗船ろ向心一人く三和ろと返くみ樺つけとろろ人
ろ為き衣体ろ布を敷ろ着ろ樺を入て金銭の物ろ祈ら
乗船の焼捨ろまし樺為積ろ白ろ

唐人生殺

古人日本ろの宝入て久ろをは七帝給ろまし九ツ人四書ろ

国立国会図書館　タイトル『長崎聞見録』　請求記号 863-205
ガラス使用

たゞ男の性とみるのみ唐人の称呼
別なる家にかゝれる人の多勢が
庭を走る或は笑ふ人あるひは
動哭してかなしむ物に驚ず一切のこと
物を禁じ是我国の人僧をころし
奪て能く焉あり又僧を殺
すを禁ず唐人いふらく彼僧
を禁ずるは唐人にふらぐ彼僧
ふかきのみならずまたあらゆる事をして
生物のみならず悪事のあらんことを
欲するなり唐人

唐人の性として我国の地をとれる七乃至十人
の多勢が一人の多勢が一人の
血のあるを見れば眉をひそめ
走る或は笑ふ人あるひは
動哭してかなしむ物に驚ず一切のこと
物を禁じ是我国の人僧をころし
奪て能く焉あり又僧を殺
すを禁ず唐人いふらく彼僧
ふかきのみならずまたあらゆる事をして
生物のみならず悪事のあらんことを
欲するなり唐人

毎日あるなり是代るゝ男の性
口星に仁をよろこぶとなり但学ぶに
雲と通ずるさまなるなり

唐人饅

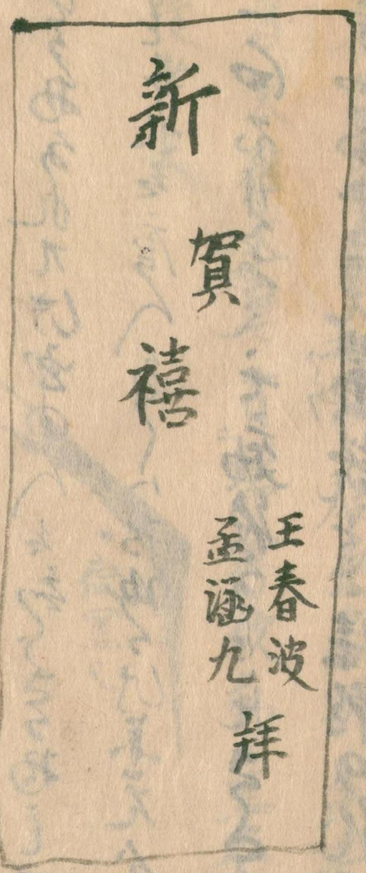
唐人饅は東北に山うとう西南の方に出入門を具三方ハ
巌海二至に雲にあり世間の猴のごとく猴ハ
共饅頭入妻子見ゆる菓子着ゝ
又等の唐人ハ称やく多くなりて
驕奢の唐人額

国立国会図書館　タイトル『長崎聞見録』　請求記号 863-205

ガラス使用

新春賀札

唐人館内ニ役人ニの諸許あり新春の賀の札を持ち来たるのこと



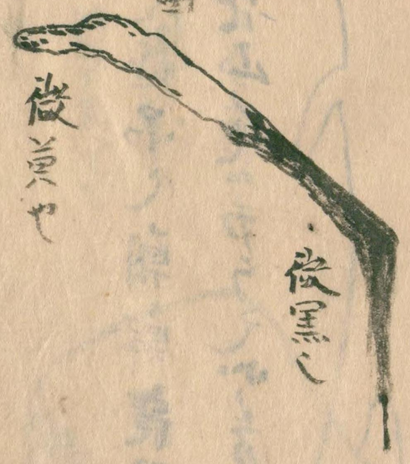
国立国会図書館　タイトル『長崎聞見録』　請求記号 863-205
ガラス使用

夏草冬虫

夏草冬虫ハ通俗唐人抔医薬ニ専ラ用ユル事ニシテ唐人ノ書ニモ多ク載セタリ和漢ノ医家モ亦之ヲ重ンジ価ヲ貴シ其功ヲ称スル事一ニシテ不見者ナシ其効験ヲ記スル亦同書ニ詳ナリ蓋シ僵蚕ト云ル佳品ノ如シ其ノ形状ヲ見ルニ全ク蚕ノ僵タルモノニシテ参茸ヲ侮ルノ奇品ト謂ヘシ今左ニ本文ヲ抄録シテ参考ニ供ス

夏草冬虫ハ通俗唐人抔医薬ニ専ラ用ユル事ニシテ唐人ノ書ニモ多ク載セタリ和漢ノ医家モ亦之ヲ重ンジ価ヲ貴シ其功ヲ称スル事一ニシテ不見者ナシ其効験ヲ記スル亦同書ニ詳ナリ蓋シ僵蚕ト云ル佳品ノ如シ其ノ形状ヲ見ルニ全ク蚕ノ僵タルモノニシテ参茸ヲ侮ルノ奇品ト謂ヘシ今左ニ本文ヲ抄録シテ参考ニ供ス

昔有女人自遠来餉予一物名曰夏草冬虫蠕出陝西邊地二在夏則為虫冬則為草故以是名焉浸酒服之可以却病廷年余所見時僅草根之枯者然前後截然状顔色各別半青者僅作草形半黒者畧粗大具有蠕蠕動意不見傳記書之以俟後考云



国立国会図書館　タイトル『長崎聞見録』　請求記号 863-205
ガラス使用

鳳凰城

鳳凰城ハ人参之極品ヲ産ス人参ヲ採ル北山ノ北ハカラフト小ノ方ニ產ハミナ次ノ

羊角人参

ハ尖ト唐人指ス物ノ如ク佐尓ノ参ニテ周ノ廻ノ徹シテ内ノ廻ノ徹ルヲ佐尓ノ参ト云ヒ何ノ内モ徹ルヲ

玉人参

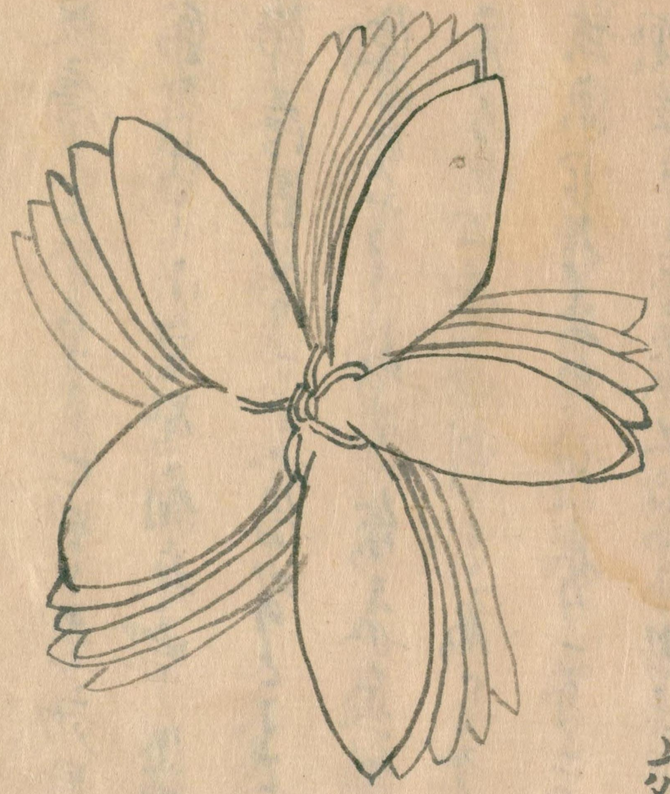
玉人参ハ七形淳九ノ如ク黄色ノ徹シテ芯ヲ中周ノ多ク羊角人参ノ膏肉ニ似タリ佐尓ノ人参ヲ四等ニ格ヲ稱ス

交趾肉桂

肉桂上尓ニ於テハ唐ニテ稱スル三ツノ皮ヲ取ハ中尓ニ湯ノ氣ニ入好テ鍋料理ニ用ル中尓ニテモ下尓ニテモ市中ニ賣ル

文趾陳皮

文趾の陳皮を無上好物とし唐人つねに用ゐ
てあまし皮をえつらに割裏〳〵白綿をも
そのまゝ文字に拵朱をうるほすものをそのまゝ
うつし唐にては王侯大人の用ゐる格上のふしぎ
ものとなん 香味芳香雪霜のふかき格
格をもつて賞翫し用ゐ唐人抔料理をするにも
遠ざかりそれほどにあつかふもの



文趾陳皮之圖

漢名朱橘

和名ベニカウジ

浪膏

浪膏を本草に記せる効験多く和らに真形気毒動を伏す小児驚癇疼啼(ひき)潮発(ひきつけ)して口眼牽引(ひきつる)するを治す一二方無瞻(みまい)帰省(かえり)毎(ごと)に必ず数人瞻眩(めまい)するに依て大抵の下痢毒最も劇(はげ)しきを知るべし

繆凝(もみこり)海蜆(あさり)浪石(なごし)

茶莉石

茶莉を搗砕(つきくだき)き籠漉を刻衣一両を加へ煎凝(せんこり)して膏(あめ)となし一年に至るまで久しく変ぜざるの物なり

撮攬膏(つまみぐすり)

又一名喜膏(よろこびぐすり)とも

国立国会図書館　タイトル『長崎聞見録』　請求記号 863-205
ガラス使用

撥撥ニ活茶ヲ調合シ飲ム
能ク唐人ノ如ク好ンテ煙ヲ吸ヒ
又製シ売ル

唐持料ノ何首烏

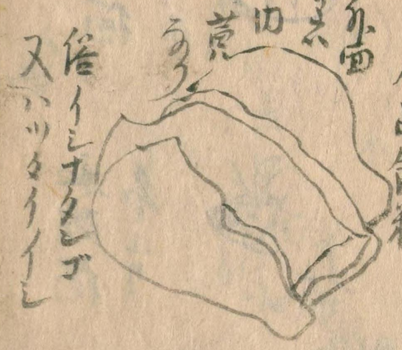
○茶膏
ノ効ハ頭痛ヲ治ス

茶膏 真服薬ニ

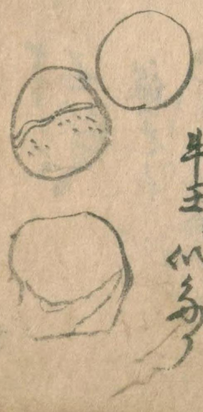
かゝと治ス

硯蓋ニ刻ス
本綿ヲ水ニ化ス

象山貝母
形ヲ写ス
全ク雪ヲ取
貝ノ如シ



唐人形ノ如キ
天南星



馬勃 和名ヤブ
牛ノ尿ニ化ス

施中ニ用ユ

木瓜

唐班猫
色微黄

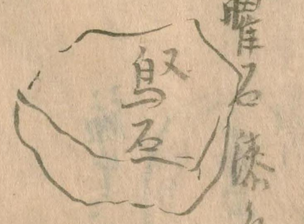
燕窩菜 俗名エンス

南海島中ニ多シ形状如
吳ツバメノ巣ニ似タリ燕子藻ト云ヒ
又海蜒ノ唾ヲ以テ作ルト云フ

和猫
色ルリ

やきもん石焼
微黒色

黒曜石 漆色

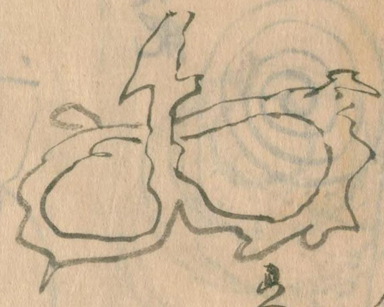


鳥石

ニゲ茶色

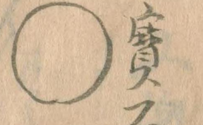
栗石

海帆 俗名鐵樹

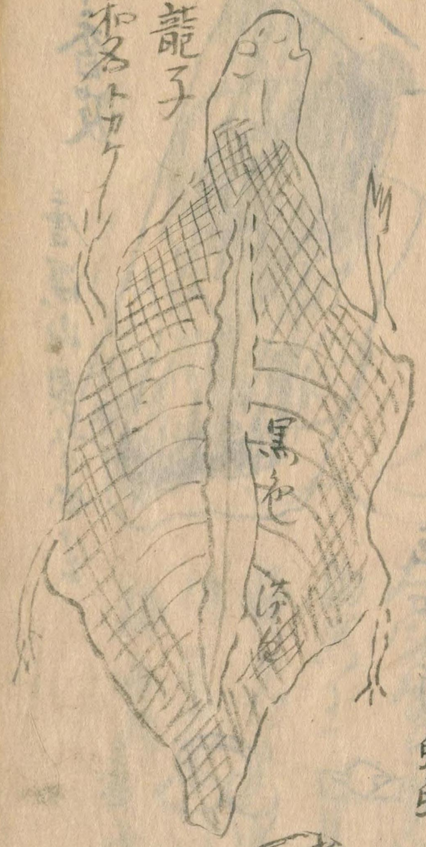


赤色

寶石
ルリ色



石龍子
黒色 淡



蛤蚧

海牛
微黒色

和名
うミスズメ

国立国会図書館　タイトル『長崎聞見録』　請求記号 863-205

ガラス使用

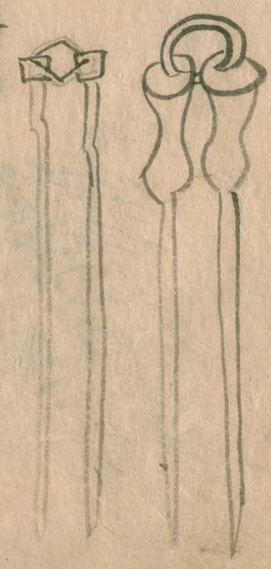
丁香皮

唐深山奥谷出ト云

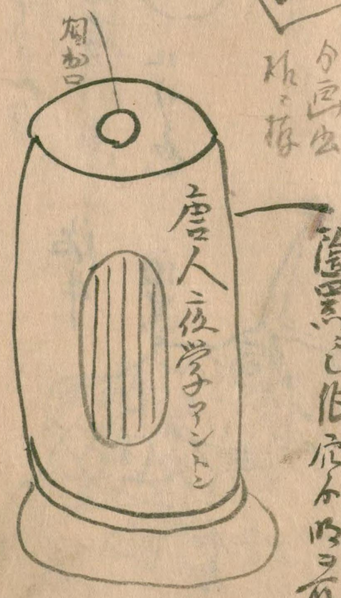
朱肥

画雲片膏

朱筆ヲ
刻ミ
ひしかけ
分画ヲ
付ケ
様ニ
拵

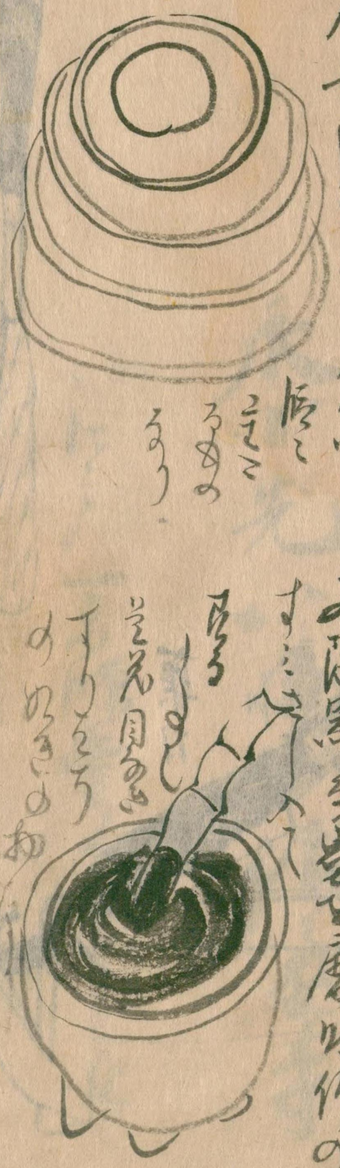


唐人次管



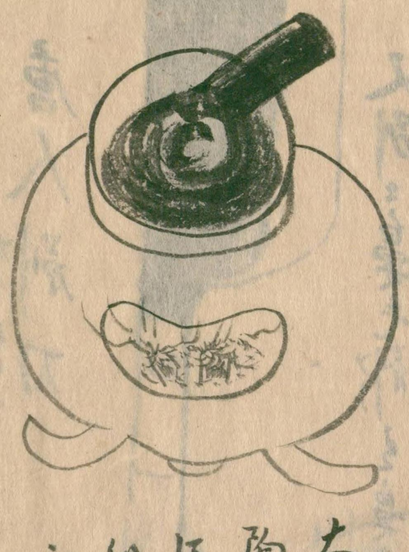
唐人夜学アンドン

陶黒ニ仕底ヲ明ル



画硯 此図幾枚ニテ大分小ト
陶黒ニテ作ル
ここ
ろなし
ろ

墨ヲ磨ル器ニ多シ
すこし
ろ
ここ
ろ
ものあり

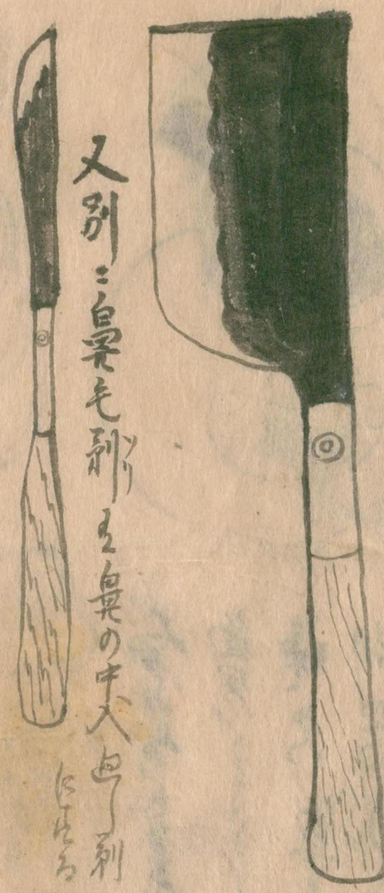


大字ノ書ニ墨ヲ多ク磨ルニ
陶黒ニテ作ル
焼ク多クハ水ヲ入ル
行ヲ
ろ
ろ
ろ

863
205

19821

唐人剃刀（かみそり）



又別に鼻毛剃（そり）を鼻の中へ入れる

薬刀

国立図書館
昭 24. 3. 29 和
寄贈

国立国会図書館　タイトル『長崎聞見録』　請求記号 863-205

ガラス使用

天保十四年卯五月

大目付

長命院秘書内也

長命院秘書内也

元禄格

四年

国立国会図書館　タイトル『長崎聞見録』　請求記号 863-205

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『長崎聞見録』　請求記号 863-205

ガラス使用